

— 報告 —

経過

- (1) 防災教室に先駆けて1月8日(火)に教職員研修会を実施し、先生方の防災意識の共有をはかった。
- (2) 港中学と防災塾・だるまで、初めての試みとなる防災教室のねらいと進め方をすり合わせた。
- (3) 教材として関東大震災と阪神淡路大震災の画像・映像をだるまが準備することとなった。
- (4) 高松リーダーの呼びかけで、2月28日(木)当日は14名のだるまメンバーが参加・協力した：
荏本(塾長)・高松(リーダー)・池田・片山・森・加藤(清)・山口(昭)・佐々木・田中(喜)・中島・
中村(茂)・小原・山田(美)・成松 (敬称略)

防災教室の概要

- ◆日時：2013年1月28日(木)
6校時(14:25~15:15 50分)
- ◆対象：1年生(3クラス) 計7クラス
2年生(4クラス) (約230名)
- ◆場所：それぞれのクラスの教室で実施。

◆50分授業の展開：

- 0~10分 授業の説明・だるま紹介・あいさつ
- 10~20分 ビデオ(阪神淡路大震災)と写真(関東大震災)の視聴
- 20~45分 ワークショップ
グループでまたはクラス
全体で意見を出し合い、
ワークシートに記入。
- 45~50分 まとめ・グループ発表

《今回の防災教室のねらい》

関東大震災と阪神淡路大震災の被災状況の特徴と地域の特性を画像・映像から学び、東日本大震災と比較し、それぞれの違いを考えることを通じて、

- ① 大地震発生から火災に発展する災害について学ぶ。
- ② 大地震に遭遇した時の行動について考える機会とする。

写真とビデオで大震災を見る：

関東大震災(1923年9月1日)

(震源に近い横浜では壊滅的被害)

阪神淡路大震災(1995年1月17日)

(大都市が倒壊、密集地で火災)



《ワークショップ》

- ・・・グループに分かれて話し合う・・・
- ☆自分の身を守るためには何をすべきか？
- ☆災害を広げないためにどんな行動が必要か？

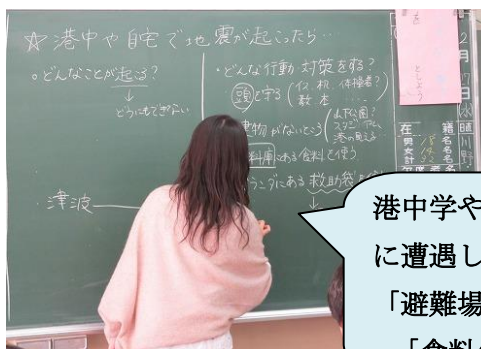
関東大震災では、山下町や中華街でも建物は倒壊し、焼け野原となった。



《だるまメンバーの役割》

- ・クラス担任が主導して授業を展開し、だるまメンバーは各クラスに2名がファシリテーターとして入り、質問に答えたり、防災についてアドバイスして担任をサポート。

グループ発表



港中学や自宅で大地震に遭遇したら：
「避難場所の確認」
「食料の確保」……

まとめ



《港中学校の特性》

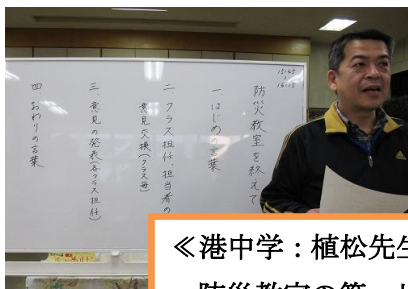
- ◆学区内に中華街・元町商店街・山下公園等の観光地がある。
- ◆地域防災拠点となっている。

- ★何よりも大切なのは、命を守ること。
 - ★地域の危険・地域の特性を知る。
 - ★臨機応変な判断力を養う。
- (最後に、横浜市消防局「減災行動のススメ」を配布)

終了後に防災教室をふりかえり



- ◆東日本大震災では自分たちはどう行動したのか、その経験から生徒たちは防災に関心を持っている。
- ◆外部から防災を知るだるまメンバーに参加してもらったことは良かった。だるまの人の話をもっと聞きたいとの声もあった。
- ◆画像・映像もインパクトがあった。(画像・映像の見せ方については意見・要望も出た。)
- ◆今回の防災教室を来年度以降にどうつなげていくかが重要。港中学としては、次のステップとしてマップ作り等を考えており、だるまの助言を得たい。



《港中学：植松先生》

- ・防災教室の第一歩が踏み出せました。

《荏本塾長》

- ・防災教育は積重ねていくことが大切。
- ・だるまには防災意識の高いさまざまな人材がいる。防災塾・だるまの新しい地域貢献の取り組みとして、ノウハウ・資料なども整備していきたい。



《高松リーダー》

だるまメンバー多数の協力ありがとうございました。

(報告書作成：成松)